

# 芸歴6年、最高齢の若手です



東北電友会会報98号に寄せて 支部長メッセージ

岩手支部長 小野寺 哲



土曜日の朝刊と一緒に配られる別刷りにあった、芸人・おばあちゃん(78)が舞台上に立つ写真と『芸歴6年、最高齢の若手です』の大きなタイトルが目に残りました。芸名「おばあちゃん」は、71歳で芸人養成所の門をくぐったピン芸人、デビューの遅さで群を抜くとのこと。記事には、へなげ70代から挑戦を?「いえ、70代になつたからやれるんですよ。若いころはできなかった」年齢を重ねて来ないことも増えていくことは現実としてありますが、新たに出来ることもあり、人生の先輩に強く励まされる思いがしました。

私は今年68歳になります。再就職した勤めも数年前に終了して、電友会活動に参加する機会が増えてきました。活動を通じてお会いする方々の語りには、とても楽しいものです。その方々が退職後に新たに始めたことについて知る機会もたびたびあり、多くの気付きも与えてくれます。まさに「今(退職後)だからやれる」を実践し、生き生きと楽しそうに伝えてくれる表情は、そのことが豊かな人生の一端を担っているに違いなく、羨ましく憧れに似た思いを感じます。今回は、私の電友会(岩手)での出合いの中で特に強く印象に残る三人の方々を紹介することで、電友会の活動にこれから参加してみようか?と思われている方の背中を少しでも後押し出来ればと思います。

一人目は、前回の余技作品展(盛岡駅西口のマリオス20階で10月に4日間開催)で展示スペースに手作りの冊子を何冊も並べていたNHさん。冊子のタイトルは『忠義に死す』南部盛岡の戊辰戦争『奥州・平泉 藤原四代が残したもの』『人は知・知は生』生涯学習のすすめ』他にも何冊もありました。冊子の表紙にはタイトルと共にNHさんの名前が。この方、かねてより興味があった岩手や秋田などの北東北・古代史中世史について生涯学習の一端として取組んでいるとのことでした。冊子内のNHさんの経歴には、退職後に秋田大学理工学部通信講座で地球科学コースを専攻とありました。私には歴史研究と地球科学が結びつかなかったのですが、「Eトは地球にへばりついて生きている訳で、人間の歴史は地殻表面における地球環境のもとで影響を受けて作られています。親和性が無いとは言えません」とのこと。地域の依頼を受けて講演活動も行っているようで生涯学習としての取組が地域の文化継承にもつながっているのだと思うと頭が下がります。

次に紹介するのは、ボランティアサークルの代表として活動されたNSさんです。退職後の余暇を社会に役立てたいとの思いから、平成元年女性の退職者25名が点字図書館を見学し、点字講習を三か月受講したのが始まりと聞きます。ボランティア活動の内容は

視聴覚障害者のための図書等の点訳や音声訳、情報を発送する業務などで、令和7年3月までの36年間活動をしてこられました。「大変な仕事だったが、障害者の方が喜ぶ顔を思い浮かべ、会員同士がお互いを励まし合いながら楽しく続けることが出来た」と振り返っていました。人知れず誰かのために力を尽くした36年——その静かな情熱と継続の力に深い敬意を抱きます。

最後の一人は、私が二十代の頃から公私ともに深くお世話になったSMさんです。この方は何とも豪快で愉快です。退職後にテニスに夢中になっていて大会にも出ていると耳にしていました。久しぶりに電話で話をしたら「テニスコート作つたから遊びに来い!」はあ?マジで?」遊びに行くこととテニスコート脇の二階建てのログハウス風の家も自分で建てたとのこと(正確には大工の友人に指導を受けながらですが)。何とも熱い情熱と凄じ行動力に脱帽でした。テニスは少し冷めたようですが、今はゴルフと冬はスキーにと元気に動き回っているようです。最近の情報ではゴルフのアプローチ練習場(70ヤード位)とグリーンも敷地内に作ったとか、今もなお人生を全力で楽しむ姿に、勇気と元気をもらっています。

私はというと、65歳から硬式テニス(シングルス)の大会に出ることに夢中になっています。中々勝てないのですがとても楽しい時間です。ボランティアの大会は平日からスタートすることが多く、そういう意味では勤めを終えたからこそ始めることが出来たとも言えます。

三人の紹介で終えようと思つていましたが、もう二人(岩手外)追加で紹介をしたくなりました。一人目は、退職後にバイオリンを習い始めたとのこと、久しぶりにお会いした際、演奏発表会の写真を嬉しそうに見せてくださり、バイオリンを切り絵でデザインした名刺まで手渡してくれたお洒落な先輩。二人目は以前の会報で知ったことなのですが、後継者が課題という歴史ある『会津唐人風』作りに挑戦しているという、何とも心意気が頼もしい先輩です。いずれも人生の節目を迎えてなお、新しいことに挑み続ける姿勢に感激です。

電友会には、いろいろな方がいるものです。間違いなく現役の時より面白い話を聞くことが出来、そのことが何とも楽しく、何ともためになる。そんな電友会は、自分の新たな可能性を発見できる場にもなるだろうと感じています。